

I. 授業の概要

この授業は社会科教育専修の専門教育科目である。登録学生数 27 名、授業評価 21 名。

授業の目的は、「人文地理学は自然地理学とともに系統地理学を構成している。本講義では、人間の諸活動と環境との関係を中心に、事例地域の分析を通じて現代人文地理学における様々な課題にアプローチする」である。

授業の到達目標は、①人文地理学の基本概念を理解すること。②様々な人文事象について主題図を用いて理解したり表現したりすることができること。③人文事象の考察を通じて地域の特質や空間的構造を理解することができること、である。

関連するディプロマ・ポリシー(DP) は、教育をめぐるさまざまな現代的課題について論じ、適切な対応を考えることができる(思考・判断)と、自己の学習課題を明確にし、理論と実践を結びつけた主体的な学習ができる(関心・意欲)である。

授業は講義形式で行なったが、フィールドワーク、討論や発表も取り入れた。経済立地論のいくつかのトピックを取り上げながら、特にフィールドワークを通じて検証を意識して取り組んだ。フィールドワーク後、グループ単位で研究発表させ、成果を確認した。

なお、この科目は課程認定科目である。

II. 授業評価の方法

授業評価は 2012 年 2 月 8 日から 2 月 15 日にかけて、Moodle を用いて次の調査票で評価させた。27 名の授業登録者のうち 21 名(78%) から協力を得た。アンケートの集計結果は以下のように示す。数字は人数である。

1)この科目を履修した理由を、下記から選んでください。

- ①シラバスの内容で判断した 5
- ②科目名で判断した 12
- ③時間割の都合で判断した 2
- ④先輩の薦めで判断した 0
- ⑤その他 2

2)あなたは、この授業にどのくらい出席しましたか。

- ①15回(仮に15回目も出席した場合) 8
  - ②10回~14回 13
  - ③5回~9回 0
  - ④4回以下 0
  - ⑤分からない 0
- 3)あなたは、予習や復習を積極的に行いましたか。
- ①そう思う 0
  - ②どちらかといえばそう思う 4
  - ③どちらとも言えない 10
  - ④あまりそう思わない 6
  - ⑤そうは思わない 1
- 4)あなたは、授業に対して意欲的に取り組みましたか。
- ①そう思う 5
  - ②どちらかといえばそう思う 10
  - ③どちらとも言えない 5
  - ④あまりそう思わない 1
  - ⑤そうは思わない 0
- 5)教員の話し方(言葉・声の調子など)は適切でしたか。
- ①そう思う 11
  - ②どちらかといえばそう思う 9
  - ③どちらとも言えない 1
  - ④あまりそう思わない 0
  - ⑤そうは思わない 0
- 6)パワーポイントなどの字や図表の表現は適切でしたか。
- ①そう思う 12
  - ②どちらかといえばそう思う 6
  - ③どちらとも言えない 3
  - ④あまりそう思わない 0
  - ⑤そうは思わない 0
- 7)教員は、学生が質問や意見を述べられるように配慮しましたか。
- ①そう思う 10
  - ②どちらかといえばそう思う 8
  - ③どちらとも言えない 3
  - ④あまりそう思わない 0
  - ⑤そうは思わない 0
- 8)時間配分など、授業の進め方は適切でしたか。
- ①そう思う 8
  - ②どちらかといえばそう思う 8

③どちらとも言えない	3
④あまりそう思わない	2
⑤そうは思わない	0
9)配布資料、教科書などの教材は適切でしたか。	
①そう思う	8
②どちらかといえばそう思う	8
③どちらとも言えない	4
④あまりそう思わない	1
⑤そうは思わない	0
10)Moodle の使用は効果的でしたか。	
①そう思う	6
②どちらかといえばそう思う	8
③どちらとも言えない	4
④あまりそう思わない	2
⑤そうは思わない	1
11)教員は、授業中の私語に対して適切な処置を取りましたか。	
①そう思う	6
②どちらかといえばそう思う	7
③どちらとも言えない	5
④あまりそう思わない	1
⑤そうは思わない	2
12)教員は、学生の理解度を確認しながら授業を進めましたか。	
①そう思う	8
②どちらかといえばそう思う	8
③どちらとも言えない	4
④あまりそう思わない	0
⑤そうは思わない	1
13)フィールドワークは授業内容の理解に有効でしたか。	
①そう思う	12
②どちらかといえばそう思う	4
③どちらとも言えない	5
④あまりそう思わない	0
⑤そうは思わない	0
14)授業の内容は興味や関心が持てるものでしたか。	
①そう思う	17
②どちらかといえばそう思う	3
③どちらとも言えない	1
④あまりそう思わない	0
⑤そうは思わない	0
15)授業の内容は理解できるものでしたか。	
①そう思う	10
②どちらかといえばそう思う	9
③どちらとも言えない	1

④あまりそう思わない	1
⑤そうは思わない	0
16)教員は、熱意を持って授業に取り組んでいましたか。	
①そう思う	13
②どちらかといえばそう思う	6
③どちらとも言えない	2
④あまりそう思わない	0
⑤そうは思わない	0
17)この授業は全体的に満足したものです。	
①そう思う	12
②どちらかといえばそう思う	6
③どちらとも言えない	1
④あまりそう思わない	1
⑤そうは思わない	1

18)この授業について、あなたの意見や感想などを自由に述べてください。

21名全員からコメントを得た。紙面の関係で肯定的なコメントを割愛し、批判的な意見、即ち「それなりに頑張りました。1限じゃなかったらもっと出席できてました。」「スライドが多くてポイントが分かりにくかったです。」「もっと深く掘り下げた授業をやって欲しかった。」を載せておく。これらの3意見を次年度の改善点とする。

### Ⅲ. 授業評価の結果と次年度の改善点

以上のように、授業評価は概ね満足するものであった。授業の内容やフィールドワークの実施に対してかなり評価している。パワーポイントを用いた授業の方法や、資料提示に用いた Moodle に対しても、肯定的であった。次年度では、こういった点をさらに工夫して活用していく。

その反面、学生の予習や復習に関する質問では、予習や復習する学生が少なく、授業時間外の学習はあまり定着していない。Moodle に事前にアップロードした資料を読ませるように促したが、この方法については検討する必要がある。内容を掘り下げるように議論の方法を工夫する。

ディプロマ・ポリシー(DP)との関連からみても、講義やフィールドワークと討論を通じて、受講生は授業で取り上げた課題をより体系的に考えるようになり、さらにその刺激を受けて、より能動的に課題を見つけて学習するようになったことも確認できた。